



持続可能な社会に向けて連携協定を締結

6月29日(水)、株式会社ecommit(薩摩川内市)とサーキュラー・エコノミー推進に関する連携協定を締結しました。

今後、(有)そおりサイクルセンターに搬入される物の中からまだ使えるリユース品を再利用に繋げることや、環境教育の拠点作り実現に向けた取組みなど連携し、持続可能な社会づくりに向け、協力して取り組みます。

代表取締役CEOの川野輝之てるゆきさんは「大崎町を、ごみを少しでも少なくする仕組みのロールモデルとして日本全国に発信していきたいです」と話されました。



大崎町産マンゴーでスイーツ作り 高校生に講習

6月27日(月)、日本を代表するパティシエのよろいづからしひこ 鎧塚俊彦さんが町内のマンゴー農園を見学し、翌日、鹿屋中央高等学校において、生徒を対象に講習および講演をおこないました。

これは、コロナ禍で行事の中止が相次ぐなか生徒に夢をもってもらいたいと、県内の企業や有志が企画したものです。講習で生徒は、鎧塚さんの指導のもとマンゴーを使ったロールケーキを作りました。

鎧塚さんは「素材の良さを引き出すことを大切にしています。手間暇かけて加工しているので、より一層美味しくするという思いで作っています」と話されました。

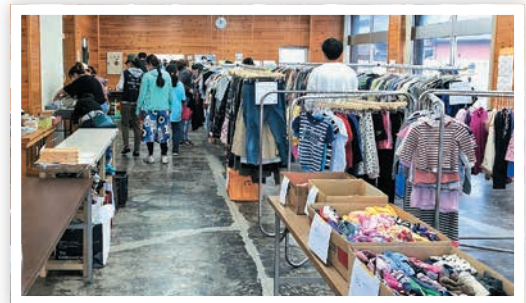


野方で一歳馬のせり市

6月21日(火)、野方のJBBA九州種馬場において、年に1度の「九州一歳市場」が九州軽種馬協会の主催で開催されました。同市場は、九州では大崎町のみでおこなわれています。

九州で産まれた一歳の馬が27頭上場され、場内で馬主や調教師が馬の状態を確認した後、競りの会場で競り落とされました。

せり市は新型コロナウイルス感染症予防のため、オンラインによる入札も併せておこなわれました。



不要なものを必要な人に リユース市を開催

6月19日(日)、マルおおさき(旧そうしん跡)において、住民有志による「第2回マルおおさきリユース市」が開催されました。

これは、外国人技能実習生の衣類が不足気味であることや、地域住民から衣類などまだ使用できるが捨てるにはもったいないといった声があったこと、また、ごみを少しでも減らしたいという思いで企画されました。

事前に不要品を募り、衣類や台所用品、食器類、雑貨、本などが集まりました。当日は多くの来場者で賑わいました。

